

## 【巻頭グラビア説明】

# 世界の鏡から 日本の観望

### 東京大学木曾観測所 105 cm シュミット望遠鏡 (表ページ)

世界第4位の口径を誇るシュミット望遠鏡(左)は今年で38年目を迎える。その間全国の研究者に共同利用望遠鏡として公開してきた。シュミットの観測は写真乾板から、1KCCD, KONIC, 2KCCDなどの観測装置を経て、今年4月に木曾超広視野カメラ(KWFC:右上)の運用が始まった。シュミット望遠鏡の「鏡」(右下)は直径150 cmあり、6月20日岡山天体物理観測所にて11年振りにアルミの再蒸着を行った。また、観測も新たな段階を迎えている。これまで行われてきた共同利用観測に加え、KWFCの高いサーベイ能力を活かす新たなプロジェクト「超新星サーベイ:KISS」と「銀河面サーベイ:KISOGP」を開始した。観測にかかわるシステム全体の効率化を図りながら(右中)、新たな目標に向けて準備は万端である。

### 大学 VLBI 連携観測網 (Japanese VLBI Network = JVN)⑥ (裏ページ)

#### 国立天文台水沢 VLBI 観測所 VERA 小笠原観測局 20 m 電波望遠鏡

東経142度13分、北緯27度6分、東京から南に1,000 km離れた小笠原諸島父島にある。最大基線長2,300 kmのVERA局配置にとって重要な位置にあり、精密な天体位置測定には欠かせない望遠鏡となっている。湿度の高い環境に加え潮風の影響で錆による腐食が激しく、台風通過後のアンテナ洗浄は欠かせない。島内観光の目玉の一つともなっており、光るキノコのグリーンペペにちなんで、夜間はオレンジペペの愛称で親しまれている。